

第4回 学校力育成会議

協議テーマ「富士宮の子どもたちにとって信頼される先生とは？」

富士宮市役所会議室
平成21年2月9日(月)
午後4時30分から午後6時30分まで

教育長挨拶

- ・第3回学校力育成会議では多くの市民の方に参加していただき、アンケートも含めて貴重な意見をたくさんいただき感謝している。
- ・市民の方に関心をもっていただき、富士宮の教育について学校・地域・家庭が連携・協力して考えていこうという雰囲気や動きが見えて好ましい。
- ・今日のテーマについてそれぞれの立場から率直なご意見をいただきたい。

協議

1 よい授業をする先生、よい授業をしようと努力する先生

子どもたちと「一緒に」活動し、「熱心に」「誠実に」指導する先生である。
子どもたちは、授業が分かる先生が好きである。よい授業をする先生を求めている。
よい授業をする先生を大切にしていかななくてはならない。
よい授業は目指す姿であり、ゴールではない。ゴールに向かって努力する姿を認めたい。
子どもの思いに寄り添った授業を組んでいけるかが信頼の元である。

2 多様に表れる子どもらしさを受け止めてくれる先生

毎日の暮らしの中で何を要求しているのかを感じ取ってくれる先生を求めている。
子どもが見せる表れからいろいろなことに気づける先生であってほしい。
子どもの心に共感してほめてくれる先生であってほしい。
成長している子どもたち、これから伸びようとしている子どもたちに寄り添ってほしい。
自分自身がよくなりたい、変わりたいという思いを子どもが実感した時、先生を信頼する。

3 授業も大事だが、その基盤に必要な資質がある。

子どもの存在を大人と同じ感情、感性をもった人間として見る見方が大切である
教師の表情や声の質、音量は資質能力の基盤的な部分につながる。
心と心のつながりを訴えるところがあってこそ教育者である。
子どもを育てようとする情熱、使命感、信頼関係づくりが教師のあり方の根底にある。
子どもに限りない信頼をもっている先生がよい。

4 信頼される先生を育てる学校であり、地域でありたい。

モチベーションを高くもって取り組めるような学校作りをすれば、信頼される先生も増える。

富士宮は教員に対する信頼が厚いところであることを大切にしていきたい。

教師の力量差のバランスをとるために組織の中で若い先生を育てて、学校力につなげたい。

先生たちの力を地域や保護者に広報していくことが必要である。

企業（会社）に出前をして、学校の現状理解を求めていくことも必要なのではないか。

<天笠座長より>

努力しようとする先生を支えるための学校、地域の体制が必要である。若い人たちを育てるための富士宮としてのプログラムがあれば、環境や歴史を背景に育っていくのではないか。

学校は子どもだけでなく、教師も育てる必要があり、その二つがそろっている学校が学校力のある学校である。

先生への信頼の厚さがキーポイントである。難しい時代の中で、そこを目指せば最大の強みになる。

「先生への信頼」を目指し、そこに向かって一連の対策が結びついてよい提言になればよい。